

# 大学生が体験学習を行いました

福岡県立大学人間社会学部公共社会学科1学年の中田青来さんが、8月15日(月)~19日(金)の間、男女共同参画センターで職業体験学習を行いました。5日間という短い期間でしたが、実際に働く現場に触れ、男女共同参画事業や女性相談事業、及び男女共同参画センターの管理・運営などについて理解を深めました。また、学習初日に与えられた課題について考察し、その内容を資料にまとめ、学習最終日に職員の前で発表を行いました。

この体験学習を通して、受入れ側も若い世代の意見を聞くことができ、貴重な機会となりました。発表で出された意見などは、今後の事業運営にいかしたいと思います。



○皆さんの働く姿から多くのことを学びました。仕事の理解度が高く、互いに協力し、何事も臨機応変に対応されていたのを見て、私も大学生活で培っていききたいと思います。

○男女共同参画という言葉がイメージでしか捉えられておらず、正しく理解できていなかったのだと気づきました。男女共同参画の参画とは、事業などの計画段階から主体的に関わることであり、参加とは異なることを初めて知りました。今後、大学のサークルでイベントなどに取り組む際には、計画段階から参加したいと思います。

体験レポートから

# 出前講座を実施しました

福岡県立大学から社会調査実習の特別講師としての依頼があり、5月19日(木)に同大学人間社会学部で出前講座を実施し、25人が参加しました。

ほとんどの学生が見やすい資料の作り方でわかりやすかったという感想でした。これを機に、大学生と協働で若者向けの啓発事業を実施できたらいいなと思いました。

## <男女共同参画出前講座 募集中>

田川市男女共同参画センターでは、市民のみなさんに楽しく男女共同参画について学んでいただくために、出前講座を実施しています。

地域やサークルの学習会や職場の研修等にお気軽にご利用ください。

テーマの例:「男女共同参画ってなに?なぜ必要?」「イクメン、イクボスって?」「ワーク・ライフ・バランスについて知りたい!」「固定的性別役割分担意識って?」

対象: 田川市に在住、通勤、通学されている概ね10人以上の団体

日時: 平日の午前9時から午後9時までの間で2時間以内

場所: 田川市内。会場は申し込まれた団体でご用意ください。

講師: 田川市男女共同参画センター長

講師料: 無料

申込方法: 受講希望日の1か月前までにご連絡ください。

なお、人数、日時については、上記に当てはまらなくても対応できますのでご相談ください。別の会議等と組み合わせたミニ講座も開催できます。

※出前講座の実施は地域貢献活動評価項目の対象です。



# 性の多様性を認め合える社会へ

「LGBT」という言葉を見聞きする機会が増えてきましたが、まだ正しい理解がされていないため、当事者の人たちが何気ない言葉に傷ついたり、誤解や偏見から差別を受けたり、自分らしく生きることが難しい状況にあると言えます。

性を男女のどちらかに分け、「異性を好きになること」が「ふつう」とされてきました。しかし、実際には、自分のカラダの性に違和感をもつ人や、同性を好きになる人、性別にこだわらない人、同性にも異性にも惹かれられない人など、さまざまな人がいます。

性の要素(カラダの性・ココロの性・好きになる性)の組み合わせによって、様々なセクシュアリティ(性のあり方)が生まれます。また、性の要素は人それぞれであり、各々の要素でも、男か女かを分ける境目がどこにあるのかは、一人ひとり異なります。

性のあり方は、虹のようにグラデーションで、人それぞれ多種多様です。

## ●「SOGI」とは?

近年、「SOGI」という言葉が用いられるようになってきました。「SOGI」は、性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の頭文字を並べた言葉で、多数派も含めたすべての人が共通して持っている属性で、一人ひとり異なる性のあり方があるという考え方を示しています。

## ●「LGBT」とは?

「LGBT」は、レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセクシャル(B)、トランスジェンダー(T)の頭文字を並べた言葉で、性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の総称の一つです。

様々な調査によるとLGBTの人たちの割合は、約11人に1人と言われ、左利きの人やA型の人との割合と同程度とされています。多くの当事者の人たちは偏見や好奇の目に晒され、学校生活でのいじめを経験し、会社や地域社会での困難に直面しています。

同性を好きになったり、好きになるのに性別を気にしなかったり、心と体の性が一致していなかったり…、それは多様な性のあり方のひとつでしかありません。異性を好きになり、また心と体の性が一致しているというも、そのあり方のひとつです。

現在の社会は、多数派である「異性を好きになる、心と体の性が一致している人々が暮らしやすい社会」、それが当たり前の社会となっています。このような当たり前の社会は当事者にとって「暮らしにくい社会」であり、「障壁」となって当事者を排除し、困難や苦しみの原因となっていると言えるのではないのでしょうか。

性は多様であることを理解し、互いにその人らしさを認め合うことが大切です。

すべての人々が自分らしく生きていくことができる共生社会を実現するため、「自分たちの身近に人知れず苦しんでいる人たちがいるかもしれない」という意識をもち、多様な性のあり方への理解を深め、私たち一人ひとりの行動に生かしていきましょう。

## 福岡県の取組

福岡県では、令和4年4月1日から「福岡県パートナーシップ宣誓制度」を開始しました。この制度により、双方又は一方が性的少数者のカップルが、県営住宅への入居申込など、本県の行政サービスを受けられるようになりました。

## 田川市の取組

本市では、令和4年3月に策定した「第2次田川市男女共同参画プラン後期計画」の中に、「性的少数者の権利を尊重する啓発の推進」「性的少数者に配慮した取組の推進」を具体的施策として掲げています。性的少数者に関する正しい理解を深めるための講座など啓発活動を行い、性的少数者に配慮した取組を進めていきます。

